

(記入者 Osamu・S)

## 科学研究口頭発表会の表彰 ～個人に合ったそれぞれの表彰！～

昨年の11月21日(土)に、玉川こども図書館の2階交流ホールで「科学研究口頭発表会」が行われたことは、以前にもお知らせしました。この会は、夏休みの自由研究の内容を子ども達が口頭で発表するもので、13回目の今年度は、小学1年生から中学3年生まで18件の素晴らしい研究報告がありました。

前は、その熱気ある報告の様子を紹介しましたが、今回は、ちょっと変わった「表彰」の内容を紹介します。

この会では、発表した全員に、その発表にふさわしい賞を贈呈します。

いくつか紹介します。小学2年生の「糸電話の研究」では、何と「100mもの長さの糸で話ができ」という報告がありました。それだけの長さの糸をピンとはるのは前代未聞の実験です！「挑戦実験賞」を贈りました。

日食の時に、木漏れ日の間から見えた太陽の形が、日食で欠けた太陽と同じ形に見えたことが不思議で、その謎に挑戦した小学5年生の研究では、再現できない日食の様子を、モデル実験で再現して調べ、「モデル実験賞」を獲得しました。

また、光の屈折の仕組みについて、精密な実験装置を自作して、微妙な実験を何回も繰り返して粘り強く調べた中学2年生の研究は、「精密実験賞」に輝きました。

そんな中で、特に素晴らしい研究には「北嶋科学賞」という特別賞を贈呈しています。今年度は、小学1年生の「ぬれたかみをピンピンにかわかす方法」と、小学4年生の「ヒルガオをプレゼントしよう！」の研究発表が選ばれました。共に、身近な不思議からテーマを選び、子どもらしい発想で問題解決的に課題を次々と追究していく展開が高い評価を得ました。また、その発表態度も、原稿の棒読みではなく、内容をちゃんと理解しながら、聞き手を意識して説明したり、質問にも自分の言葉でちゃんと回答したりできている点が高く評価されました。この会で得た経験は、きっとこれからの学校での学習にも、理科に限らず多くの場面で役に立つと思いました。

なお、北嶋科学賞は、写真にあるクリスタルの素敵な盾と、本人が希望する「科学研究に役立つ教具」を贈呈することになっていて、1年生児童には「双眼鏡」、4年生児童には「顕微鏡」を贈呈しました。これからの研究に、きっと役立つことでしょう。

来年は、どんな研究発表があるのか楽しみです。多くの皆さんの参加を待っています。



〔贈呈した盾(左)〕 〔1年生(左)、4年生(右)児童への贈呈、左側は校長先生〕